



# ピンクのドラゴン

ブルガリアで生まれた  
ファンタジックで  
奇想天外！  
こころあたたまる ハートフル人形劇！



人形劇団 **プーク**  
<http://www.puk.jp>

小学校体育館・小会場用上演作品  
「ピンクのドラゴン」

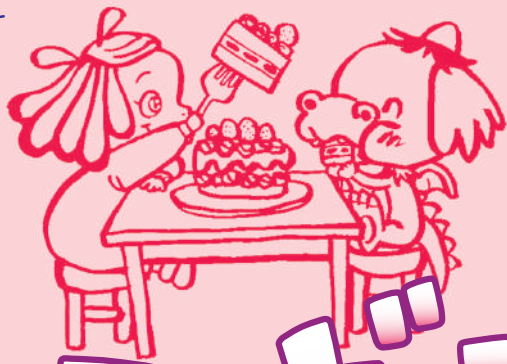
上演時間 1時間30分 (休憩15分含む)  
構成 キャスト5名 スタッフ1名 /計6名  
運搬 2tトラック 1台/2名  
公共交通機関利用 4名  
諸経費 (上演料+交通費+車両経費+宿泊費)+宣伝材料費

● お申込み・お問合せ ●

人形劇団プーク ☎ 03(3370)3371  
〒151-0053 渋谷区代々木2-12-3

FAX 03(3370)5120  
ホームページ <http://www.puk.jp>  
Eメール [puppet@puk.jp](mailto:puppet@puk.jp)

魔法のことは ペロペロプー  
 やんちゃな女の子ハッチと  
 おくびょうで弱虫な  
 ドラゴンがくりひろげる  
 あったかくて  
 ちょっぴりせつない  
 ファンタジック・ストーリー



原作／ルーメン・ニコロフ 訳／中井 郁  
 潤色／安尾芳明 演出／野田史図希  
 美術／坂上浩士 音楽／富貴晴美  
 照明／根橋生江 音響効果／吉川安志

# ピンクのドラゴン



◀ハッチ…6歳になる女の子  
 空想大好き！自分で考えた  
 ピンクのドラゴンが現実とい  
 うと信じている。



◀ピンクのドラゴン…地底に住むド  
 ラゴン。弱虫で臆病者。



◀ハッチのパパ…仕事が忙しなかなか  
 ハッチと一緒にいられないので、ハッチ  
 に甘い。



▼ハッチのママ…心優しいママ。でもハッチの  
 我がままに時折怒ることも…。



▲パパドラゴン…ピンクのドラゴンのパパ。  
 地底に住むドラゴン族の末裔。

やんちゃな女の子ハッチは、ドラゴンが  
 だいすき！いつも絵本でパパからドラゴン  
 のお話を読んでもらいます。

そんなハッチの、今日は6回目の誕生パ  
 ティ。でもパパの帰りは遅いし、お客様はまだ  
 やってきません。待ちくたびれたハッチは、い  
 つしか夢の中へ……。

目を覚ましたハッチが出会ったのは、  
 小さなピンクのドラゴンでした。とっても恥ず  
 かしがりやで、火もはけない弱虫な  
 ドラゴンです。

ハッチとピンクのドラゴン、  
 そしてパパドラゴンがおりなす  
 ワクワク楽しくて  
 ちょっぴり切ない物語です。



子どもたちに空想物語を

演出 野田史図希

「ピンクのドラゴン」は、やんちゃな女の子ハッ  
 チの空想物語です。楽しみにしていた誕生日にパ  
 パは大雪で帰ってこられなくなりました。哀しく  
 て泣き疲れたハッチの前に突然、ピンクのドラゴ  
 ンが現れます。ハッチの空想したとおりの弱虫の  
 ドラゴンでした。パパドラゴンとハッチの狭間で、  
 ピンクのドラゴンの心は揺れ動きまわります。

もし、自分の空想したドラゴンが現れたら……。  
 子どもたちは、ハッチとピンクのドラゴンの出  
 会いを自分自身に置き換えて楽しむことができ  
 でしょう。自分だけの空想物語をどんどん描いた  
 り、話したりできるようにになれば、どんなに楽し  
 いことでしょうか。

ピンクのドラゴンの舞台をとおして、子どもた  
 ちが自分だけの空想物語をつくって空想してみ  
 るきっかけになればうれしいです。それこそが、子  
 どもたちの生きる力となるでしょう。

不易流行…(変わらないもの、変わるもの)、  
 プークで引き継がれる伝統技術は勿論のこと、  
 若きスタッフ、出演者が一丸となった舞台です。私  
 自身は、今まで役者として長くプークの人形劇  
 に関わってきました。ピンクのドラゴンは、初めて  
 演出する作品です。是非、「ピンクのドラゴン」を  
 ご覧ください。



「ピンクのドラゴン」作者 ルーメン・ニコロフさんからのメッセージ

日本の子供達、あとワン・ツー・ステップでおとなになろうというおともだち、そしてたくさんのお友達のみな  
 さんへ

日本とブルガリアは、距離で言うとそれは本当に遠い国。でもとても近い繋がりを感じることが出来ます。それ  
 は—「素直な感情、イメージネーションで創る舞台」が、気持ちのいい世界を紡ぎだすからです。

人形劇団プークが「ピンクのドラゴン」を人形劇の舞台として創っていることはとても嬉しく、わたしにとって名  
 誉でもあります。この可愛い現代のお話が「あなたの中にあるたくさんの愛情」や「あなたの冒険心」「あなたの  
 楽しい時間」をつくり、あなたの心を動かすことを願っています。

そしてこの「かわいい女の子と彼女のピンクのドラゴン」の冒険がご覧になった、おともだち・みなさまの心に  
 “小さくて可愛い思い出”をつくるのが、私への“大きな贈り物”となります。

<子どもたちの“イメージネーション”をまもること!>—これがいちばんたいせつなこと。いちばん大事なこと  
 です。なぜならばそのことが、私たちの人生で素敵なことを生み出し、また困難なことからたすける鍵となるから  
 です。

これがわたしからのメッセージです。敬愛と感謝をこめて。「人形劇団プークのみなさま」へ。  
 そして、たくさんの観客のみなさまへ。「ピンクのドラゴン」公演のご成功を祈っております。

2014年3月9日

愛をこめて…

ルーメン・ニコロフ (訳おなぎ)

DEAR FRIENDS- ACTORS, DIRECTOR, ARTIST AND ALL TEAM OF "PUK THEATRE"!  
 Dear kids from Japan, dear still not quite grown adults, dear colleagues and friends!  
 Although we have a great distance between us, I feel you as close friends, because we are connected by our love to Puppetry  
 Arts, by our genuine and sincere feelings, by the play of the imagination – and exactly these make people truly good-natured.  
 It is a great honor for me that PUK theatre presents my play „The Tiny Pink Dragon“. I hope that this short contemporary story  
 will move you and give you lots of love, adventures and joyful moments. And if even just one of you keeps in his or her heart a  
 tiny memory of the little girl's adventures and her pink dragon, it will be the greatest gift to me.  
 To protect children's imagination and their world – is most important, because these make the good things in our life and  
 help us in the most difficult moments!  
 This is my message, with all my respect and gratitude, to the colleagues of PUK theatre and to everyone in the audience!  
 Good luck and all the best to our The Tiny Pink Dragon.  
 With all my love!

Rumen Nikolov



イメージネーションを大切に

現代社会は、効率化や収益化、速成が重要視され子どもたち  
 にも同じようにすぐに答えを出すことが求められています。で  
 も本当に大切なことは、イメージネーションをひろげて、とつと  
 ないことを想像したり、描いたり遊んだりすることです。そんな  
 余裕が私たちになくなっています。だからこそ、ピンクの  
 ドラゴンに会いに来て欲しいのです。  
 想像力と創造力は、子どもたちにやわらかな感性を育み生き  
 る力を与えてくれることでもあります。硬直化してゆく心を解きほ  
 ぐし、生きて行くことの楽しさが実感できるきっかけになっ  
 てることでしょうか。

